

毎日新聞

あいさつする遠藤利明氏(中央)ら県選出の自民党
国会議員一山形市で



農協改革に危機感

J A山形 自民議員と意見交換

政府・与党が検討を進めている農協改革を巡り、J A山形中央会は1日、山形市七日町の県J Aビルで、自民党の県選出国會議員と県議と意見交換会を開いた。遠藤利明氏ら4人の自民党国會議員と県議約20人が出席した。農協側は、中央会幹部と県内17農協の組合長らが出席した。J A山形中央会の長

沢豊会長は「政府は生産現場を無視した規制改革会議の意見に即して改革に突き進んでおり、農業関係者は危機感を感じている。我々が進めている自己改革が反映された改革案になるように、政府党本部に対して強い働きかけをお願いする」と述べた。

農協の組合長らからは、全国農業協同組合

中央会(J A全中)の監査権の存廃や全農の株式会社化など政府が進める改革について「どう地域活性化につながるのか疑問だ」などの意見が上がった。遠藤氏は意見交換会后、記者団の取材に「都市部と地方では人の考え方が違う。都市部の国會議員が圧倒的に多いのでなかなか大変だが、地域のみなさんと話した上で、地域の代表としての意見をしっかりと(改革に)反映させていきたい。」

農協の役割が減ること
はないと語った。

【前田洋平】